

「言葉の力」を中核とした学校づくり

言葉は、私たちに「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」を与えてくれます。また、知的活動、感性・情緒、コミュニケーション能力のそれぞれの基盤を成します。学校づくりを進めるに当たっては、学力向上はもとより、健全育成、組織力向上、人材育成、家庭・地域との連携など、多岐にわたって「言葉の力」が鍵を握ります。

「言葉の力」を中核とした学校づくりのキーワードは、「生かす」、「深める」、「高める」の三つです。

「生かす」とは価値あるものにすること、「深める」とは、関係をより確かなものにすること、「高める」とは、可能性を広げることです。

- 【生かす】
- ① 組織を生かす
 - ② 人材を生かす
 - ③ 地域の教育資源を生かす。

- 【深める】
- ④ 子どもとの信頼関係を深める
 - ⑤ 保護者との信頼関係を深める
 - ⑥ 地域との連携を深める

- 【高める】
- ⑦ 子どもの学力を高める
 - ⑧ 人間関係形成能力を高める
 - ⑨ 感性・情緒を高める
 - ⑩ 教師の指導力を高める



これら10の視点から、各校がそれぞれの特色を生かして教育実践を積み重ねることが、多様な教育課題の解決につながると確信しています。

言葉は、いかなる社会においても文化の基盤を成します。学校には、有形無形に継承されている学校文化があります。学校文化は、学習指導・生活指導・学校運営や家庭・地域との連携等によって醸し出される学校ごとの特徴であり、それが独自の校風となって学校がかたちづくられています。本市の各小・中学校が、教師と子どもの「言葉の力」を高め生かすことで、より豊かな学校文化を醸成することを期待しています。

忙

薬師寺管長 高田好胤

やたらに忙しいのはどんなものでしょう。「忙」という字は「心が亡びる」と書きます。

出典：竹内均編「成功への名語録 366日」(講談社α文庫)

※ 私は、挨拶等で相手方に対して「御多忙にもかかわらず」と言わず、「御多用」と表現するよう努めています。忙しいのは能力に欠けるから、というとらえ方もありますので…。